

奈良県立医科大学の 将来像

公立大学法人
奈良県立医科大学
Nara Medical University

奈良県立医科大学の将来像

～ 新たなキャンパスづくりに向けて ～

平成29年4月

目次

理事長挨拶	1
奈良県知事 期待の言葉	2
「奈良県立医科大学の将来像」 策定の考え方と構成	3
「奈良県立医科大学の将来像」 策定までの経緯	5
奈良県立医科大学のシンボルマーク	7
奈良県立医科大学の「建学の精神」	8
理念と方針	
教 育	9
研 究	10
診 療	11
法人運営	12

理事長挨拶

本学は、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るといふ、積年の課題を解決するとともに、新しい奈良県立医科大学を作り上げる絶好の機会を迎えています。

この創立以来の大転機を迎えた今、本学を取り巻く環境は、大きな変化を遂げようとしています。

教育・研究面では、国による大学の選別が着々と進められるなど厳しい試練が与えられる中、各大学はその存在意義を自ら構築し、生き残りを図っていく必要があります。

また、医療面では、既に超高齢社会の時代を迎え、医科大学、大学附属病院へのニーズは、医療人の供給、先端医療の提供にとどまらず、疾病構造の変化に対応した在宅医療への関与や健康づくりへの貢献など多様化しており、これらに的確かつ迅速に対応していくことが求められています。

本学は、創立70周年の節目に与えられた新しい大学・附属病院づくりの機会に、単に施設整備だけでなく、これら環境の変化に適応しつつ、存在感をもって次世紀に向かって生き残り、飛躍を遂げるための基礎を築きたいと考えています。

そこで、この度、本学の数十年先のあるべき姿を見定め、未来に向かっての着実な歩みと大きな飛躍のための道標にするため、「奈良県立医科大学の将来像」を策定しました。

本学は今後、この将来像を現実のものとし、県民をはじめ本学に関わる全ての方の期待に応えられるよう、将来像に掲げる理念、方針に則して全学一丸となって取り組んで参りますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月

公立大学法人奈良県立医科大学
理事長・学長 細井 裕司



奈良県知事 期待の言葉

奈良県立医科大学は県内唯一の医育機関であるとともに、県内医療を支える屋台骨となる基幹病院であり、奈良県内の山積する様々な医療課題に、県と共に取り組んでいただいております。

貴大学が将来ともその役割を着実に迫力を持って担うため、教育・研究・診療という医科大学としての基本的機能の分野において、果たすべき役割は何なのか自らに問い、今般その答えを「奈良県立医科大学の将来像」として取りまとめられたことは、極めて意義深いことであります。

特に医科大学の本旨である医学教育に関して、従前の教育の反省に立ち、「医者の育て方」について本質に迫る真摯な議論を重ねられた結果、知識・技能はもとより豊かな人間性を重視した「良き医療人」の育成を根本理念に据えられたことは、日本の医学教育と奈良県民の将来にとって、大きな福音になるものと考えております。

県としては、今後予定される教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を全面的に支援することとしていますが、そのような施設のたましいとなるものがこの将来像の目指す内容だと思えます。

本県における昨今の重要な医療課題としては、これまで本県が取り組んできた救急医療体制の確立を含む地域医療構想の実現や、超高齢社会に対応して医療や介護等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築があります。このような地域医療の諸課題の解決のためには、貴大学が中心となってこそ解決の途が開けるものであり、これまでから県と共に果たされてきた貴大学の役割は、今後さらに大きくなると思えます。

今後、貴大学がこの将来像に掲げる姿を目指してご尽力され、地域医療の充実に貢献していただけることを心から期待しております。

平成 29 年 4 月

奈良県知事 荒井 正吾



「奈良県立医科大学の将来像」策定の考え方と構成

「奈良県立医科大学の将来像」の策定は、本学のUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)確立の取組です。昨今の本学を取り巻く様々な環境の変化と課題の顕在化に適応して、本学が生き残り、発展していくためには、本学のアイデンティティを改めて吟味して明確にし、それに向けて自らドラスティックに変わっていくことが求められています。それにより、本学の多様なステークホルダーとの間に実のある関係が築かれ、本学の存在価値が確立されます。

大学を取り巻く環境の変化と課題の顕在化

BACKGROUND

医学水準の高度化

- 優秀な人材確保
- 臨床教育の充実
- 卒後教育の強化
- 教育研究環境の整備
- キャリアパス構築

医療ニーズの変化

- 量から質への転換
- 医療機関の機能分化
- 診療報酬制度
- 医療従事者確保
- チーム医療体制

超高齢社会の進展

- 疾病構造の変化
- QOLの重視
- 地域包括ケア構築の必要
- 予防・リハビリの重要性
- 健康づくりへの貢献

地方創生の期待

- 研究成果の還元
- 産業創成への貢献
- まちづくりの核としての期待
- 地域交流の拠点
- 健康情報発信

大学の選別化

- 国の資源配分の差別化
- 経営基盤強化の必要
- 自助努力による財源確保の要請
- 大学連携
- 産学連携



理

豊かな人間性に基
と旺盛な科学的探
医療関係者、地域
かい心で積極的に
たり最善の医療提
とする強い意志を
を目指します。



研 究

理念

研究の成果を患者への最善の医療に
生かし奈良県民の健康増進を図ると
ともに、最先端の研究により医学の
進歩に貢献します。

方針

- 研究基本方針の明確化
- 研究推進体制の効率化と強化
- 研究の外部評価の導入
- 奈良県民の健康増進への貢献



法 人

理

最高の医学の追究、
を使命として、互
自らの職務に誇り
り組み、課題に対
する人材を確保・育
育・研究・診療の
展し続ける法人運

方

- ガバナンス
- 持続可能な
- 働きがいの
- 積極的な情

奈良県立医科大学の アイデンティティ(UI)

育

念

づいた高い倫理観
究心を備え、患者・
や海外の人々と温
交流し、生涯にわ
供を実践し続けよう
持った医療人の育成



診療

理念

患者と心が通い合う人間味あふれる
医療人を育成し、地域との緊密な連
携のもとで奈良県民を守る最終ディ
フェンスラインとして、安全で安心
できる最善の医療を提供します。

方針

- 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践
- 奈良県内基幹病院としての機能の充実
- 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進
- 各領域の担い手となる医療人の育成

針

育成プログラム

能力開発と教育

関する外部有識
生参加の推進
教育環境の充実

運営

念

最善の医療の追求
いに連携しながら
と情熱をもって取
して自ら行動でき
成することで、教
理念を実現し、発
営を实践します。

針

体制の確立
経営基盤の確立
ある職場づくり
報発信

OUTCOME

患者

最高・最善の医療による安心の提供

県民

健康社会実現の支援

高齢者

地域包括ケアモデルの支援

県内医療人

医療知識・スキルの向上

県内医療機関

適切な役割分担と緊密連携

連携機関

連携による資源の相互補完

企業

医学を基礎とする産業の創成

地域社会

MBT構想による安心のまちづくり

医学・医療界

最先端医学・医療の発信

良き医療人の輩出による貢献

地域の安心と社会の発展に貢献

「奈良県立医科大学の将来像」策定までの経緯

「奈良県立医科大学の将来像」の策定は、本学のU（ユニバーシティ・アイデンティティ）活動であり、法人構成員全員の主体的な参画を得て、設立団体奈良県とも十分な意思疎通を図りつつ進めることを重視しました。

検討の場として、本学と奈良県が共同で設置する「将来像策定会議」（本学からは理事長はじめ各分野の責任者、奈良県からは知事はじめ幹部職員で構成）を主としつつ、そのワーキンググループ、分野ごとのサブワーキンググループを広く関係教職員の参画を得て構成し、広範かつ緻密な議論を積み重ねてきました。

その過程では、法人構成員への情報提供と意見交換のため、検討に関する全資料を「見える化」とともに、役員による講演会や、法人構成員全員を対象としたアンケートやインタビューを複数回実施するなど、約3年にわたり法人構成員が一丸となって「奈良県立医科大学の将来像」の策定に取り組んできました。

第二期中期目標・中期計画に キャンパス移転を明記

（教育・研究）
「新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。」
（まちづくり）
「平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。」

将来像中間取りまとめ 結果を発表



中間取りまとめ冊子

平成28.3

2016

法人構成員との対話を踏まえて、

将来像策定会議・ ワーキンググループ・ サブワーキンググループを設置

将来像策定会議、ワーキンググループ、分野毎のサブワーキンググループ（教育・研究・診療・法人運営）を設置し、法人構成員が一丸となって「医大の将来像」の検討を開始

2015

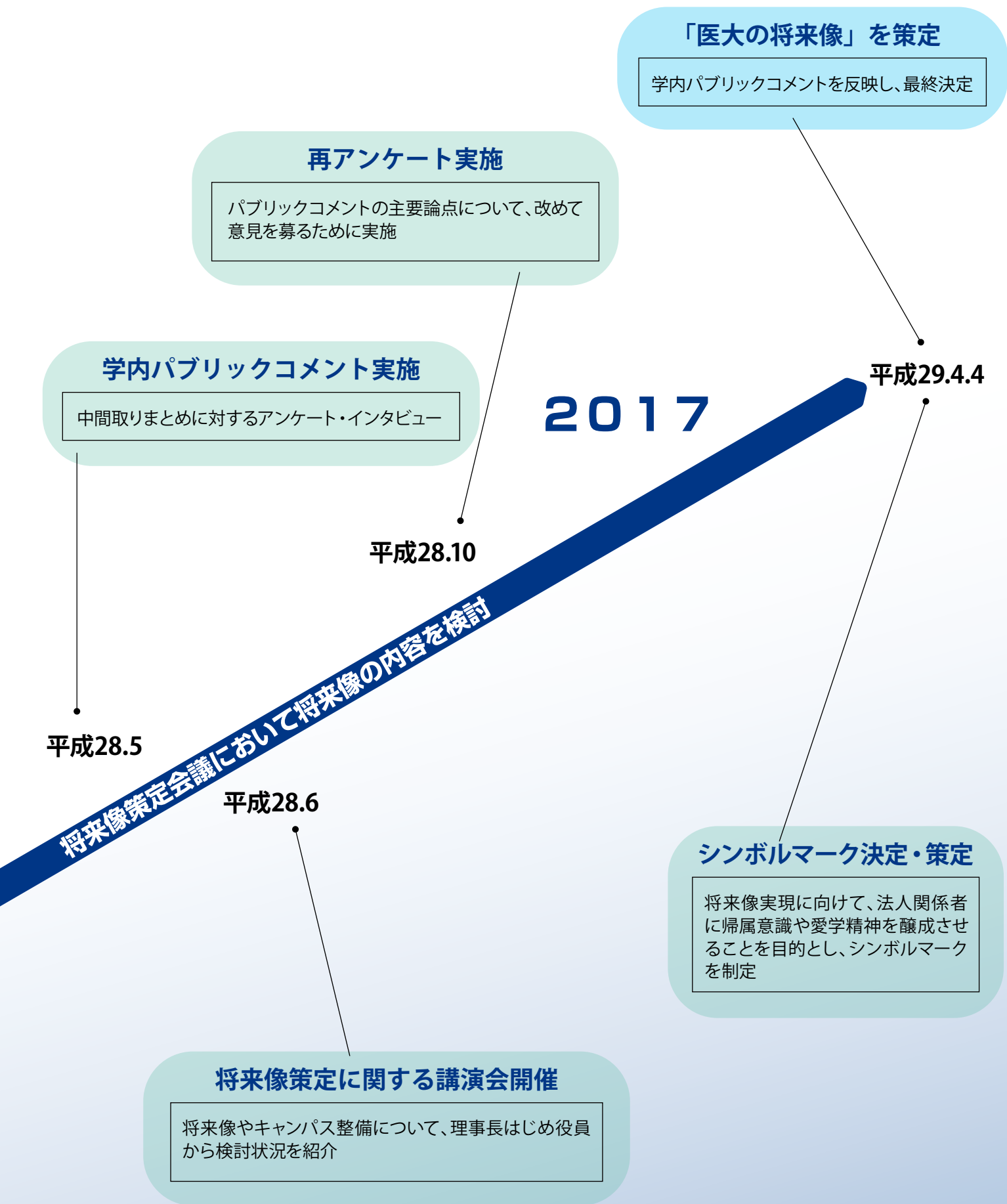
平成26.1

職員アンケート実施

将来像策定に向け全教職員を対象に法人の現状認識を調査

2014

平成25.3



奈良県立医科大学の シンボルマーク



奈良県立医科大学
Nara Medical University

「奈良県立医科大学の将来像」実現に向けて、法人に関する全ての人々の法人に対する帰属意識や愛学精神を醸成させることを目的としシンボルマークを制定いたしました。

奈良県立医科大学のイニシャル「N」をモチーフにしたもので、二重の円弧は医学と看護学の支え合う関係を意味し、そこから伸びる葉形は医療人としての成長・未来への飛躍をイメージし、本学が発展していく様を象徴しています。

奈良県立医科大学の 「建学の精神」

最高の医学と最善の医療をもって
地域の安心と社会の発展に貢献します

「奈良県立医科大学の将来像」は、本学の価値観・アイデンティティを今の時代に改めて吟味し明確にしたものであり、その成果を端的に表現する上記のフレーズを創立から 70 余年を経た今、敢えて「建学の精神」と名付けました。



理念

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針

1 良き医療人育成プログラムの実践

人間性教育・社会性教育・倫理教育・医療安全教育を核とした、医学科6年・看護学科4年一貫教育である本学独自の「良き医療人育成プログラム」を実践します。

2 教員の教育能力開発と教育の質保証

自己啓発のための研修の実施、授業評価、教育実績の評価等を通じて、教員の教育能力向上と、教育の質保証を図ります。

3 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進

魅力ある教育を実現するため、カリキュラム・シラバス・授業方法など教育全般について外部有識者評価と学生の参加を推進します。

4 学習環境と教育環境の充実

豊かな知識と優れた技能、地域貢献の気概を持った国際水準の医療人を育成するために、学習環境と教育環境の不断の改善に取り組みます。



理念

研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

方針

1 研究基本方針の明確化

講座・領域単位の専門分野の研究に加え、枠組みを超えた学内横断的な研究、大学としての重点研究（「地域に身近な研究」「最先端の研究」「医育研究」）を進めます。

2 研究推進体制の効率化と強化

研究支援体制の充実、産学官連携の推進、若手・女性・医療スタッフの研究者育成の強化を図ります。

3 研究の外部評価の導入

研究の計画・実施・結果の各段階で、学外の有識者等で構成された外部評価委員会による評価を受け、研究の妥当性と成果評価の客観性を担保します。

4 奈良県民の健康増進への貢献

奈良県の医療・保健・福祉に関する諸課題を解決するため、県と連携して「実践的研究」に取り組み、その成果を県民に還元します。



理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

方針

1 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

奈良県内唯一の特定機能病院として高度医療・先端医療を推進します。また高度救命救急センターに加え、ER救急の整備等により救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、奈良県民を守り地域の安心の確保に貢献します。

2 奈良県内基幹病院としての機能の充実

5 疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）をはじめとするあらゆる疾患に着実に対応するとともに、患者安全の取組を推進し、奈良県内基幹病院としての役割を果たしていきます。

3 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進

地域医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支えます。

4 各領域の担い手となる医療人の育成

附属病院における卒後教育を通じて、超高齢社会に対応する地域包括ケアシステムをはじめ各領域の担い手となる患者と心が通い合う医療人を育成し、地域医療の向上に貢献します。



理念

最高の医学の追究、最善の医療の追求を使命として、互いに連携しながら自らの職務に誇りと情熱をもって取り組み、課題に対して自ら行動できる人材を確保・育成することで、教育・研究・診療の理念を実現し、発展し続ける法人運営を実践します。

方針

1 ガバナンス体制の確立

全教職員のコンプライアンスの徹底を図り、責任所在の明確化と合理性をより徹底したガバナンス体制を構築します。

2 持続可能な経営基盤の確立

教育・研究・診療を安定的に提供するために目標を定めるとともに、中長期的収支計画及び資金計画を策定し、持続可能な経営基盤を確立します。

3 働きがいのある職場づくり

全教職員が法人の一員として自らの役割を自覚でき、自己研鑽を重ねることができ、働きがいのある職場をつくります。

4 積極的な情報発信

本学の取り組みを広く地域に発信し、社会の本学に対する理解を促進することにより、本学の存在価値を高めるとともに、医学・医療・産業の更なる発展に寄与します。



奈良県立医科大学
Nara Medical University

公立大学法人
奈良県立医科大学

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
TEL: 0744-22-3051
FAX: 0744-25-7657